

## 「出会い」

仙台市泉区 **氏家包男**  
**氏家勝美** カネオ

仙台の街路樹は、けあき並木があまりにも有名ですが、しかし私は“**金色のコントラストが彩る銀杏並木が一番**”といつも思っています。そして、このところ秋になるときまってやって来るのが森崎修太画伯の個展です。画伯と私達の出会いは 1999年9月仙台三越店で一回目の個展の時でした(雨のパリ)。私達は絵画についての知識は全くありませんが、絵でも陶芸品でも一見して アツ奇麗だとか、なんとなく心を癒してくれるなと感じたり、そしてなによりも作家のお人柄に触れたとき、つい手にいれてしまう傾向があります、家内が特にそのようです。小生昨年九死に一生を得て(心臓手術)直後の個展で「室内(20号)」に出会いリビングに掛けさせていただきましたが、“**青と朱色と緑が見事に調和して室内の奥深さを力強く語りかけている**” そんな素晴らしい絵です、100%満足しています。一期一絵(会)という言葉が好きですが、一瞬の出会いを永遠のお付き合いにしてしまう修太画伯の魅力とは、新鮮味溢れる洋画家としてではなく、一面では仙台名物の炭焼き牛タンで日本酒を楽しむ素朴な風貌さえ感じています、この秋お会いしたらぜひ一緒に過ごしたいと思っています。 2002年 秋



## DM作品・紹介



「セーヌの眺め」20F 油彩

6年間暮らしたパリ時代、セーヌ河畔で画家・森崎修太が感じたものが、時を越えおだやかに美しい風景に蘇った向こうに描かれてるのは、何ていう橋だろう・・・

## 「森崎修太さんの絵との出会い」

山形県上山市 **小板橋 徹**

ショッピングや気晴らしに私たち夫婦は時々片道1時間の仙台に出向く。3年前の秋のその日もそうした日であった。珍しく娘親子が同行。仙台三越の中でそれぞれ興味のあるものをアイショッピングしながら上がっていった、とある階に美術ギャラリーがあった。何気なしに見た目線の先にひきつけられる**ブルー**や**オレンジ**色があふれて心が穏やかになるような、そしてときめくような絵画がたくさんあった。「あーきれいな色だな」と私がつぶやいたとき、私の横にいたはずの妻が、娘や孫も忘れたかのようにギャラリー内に吸い込まれていったのであった。その時が森崎絵画との出会いであった。数年前に夫婦別々であったがヨーロッパ旅行をしてきたこともあって、それらしい風景を思い出したのかもしれなかった。昨年の同会場で、私は地中海の紺碧の海に浮かぶ真っ白なヨットの絵の前に目をうばわれ立ち止まっていた。その時「海がお好きですか?」と話しかけてこられたのが森崎先生であった。私は生意気にも「この絵を見ていると学生時代にヨット部に籍を置いたことを思い出して、海の香りが漂ってくるみたいで心が明るくなります」などと話した記憶がある。いつのまにか傍にきていた妻が「惹きつけるようなブルーですね」などと感想を言ったりしながら、3人でしばらく談笑して楽しいゆったりした時間を楽しませていただいた。その二枚目の絵はいま我が家になって、いまでも潮の香りとゆったりした時間を味わせてくれている。本当にあの時画伯とこの絵に会えてよかったと思う。我が家の絵を観て二人の友人からも次回は是非連れていってと注文されている。何十年來のお友達のような会話ができる優しい先生と暖かい絵に感謝している毎日です。



# 「芸術の秋」それは修太作品と会う 11 月仙台展！！

宮城県利府町 山内則子

私が先生の作品と出会ったのは、確か 2000 年の 11 月。仙台三越での二回目展であったと思う。絵を鑑るのは好きで、三越のギャラリーには足しげく主人と通っている。強烈な明るい色彩のハーモニー。描きたいものがズバツと描かれている。構図もすっきりしてて気持ちいい。今まで鑑てきた絵とは違うな。とっても好きだけど、私達年金夫婦には、手が出ないな。ポストカードだけ求めて・・・我慢・・・我慢。2001 年 11 月。案内状への先生の・・・一言につられて、楽しみに三越ギャラリーへ。ありました、ありました。明るくどこか都会的で洒落てる先生の絵。一枚一枚じっくり鑑賞しました。その中でセーヌ河の水の色に魅了されました。今まで見た事がない素敵な水の色でした。そして、清水の舞台から飛び降りるつもりで・・・今、先生の作品は、我が家で一番良い席に・・・デンと飾られています。東山魁夷の青、プーリエの青、清水規の青、藍染の青・・・と青が好きです。部屋に飾られてる作品は青系統の作品が多いのです。今年の 11 月は先生の黄色系の作品に注目しています。



展覧会でのちょっといい話  
—続編—



“500 円玉の大変身・・・”  
 絵画貯金の第一人者 大野さん  
 ご主人様の海外赴任に伴われて東南アジアへ・・・  
 お身体にどうか気を付けられて！  
 帰国されたら、又お会いできます様～

前号でご紹介させて頂いた、ほほえましいエピソードの持ち主？  
 3 人の方々 その後・・・

“お母さんのキ・モ・チ・・・”  
 嫁入り道具にこの絵を持たせたい

菊地さん母娘組  
 とりあえず、わが家に飾った・・・その・・・作品はお母さんが手離せなくなり、今もそのままとか！  
 アリヤリヤ！ 2 年後、お姉さんと一緒に修太作品を観にきてくださった！よければ・・・次は旦那サマともお越しを・・・？ 一瞬の淋しさを見せられたお母さんへもお会いしたいです！

“ジミ嬢のあかし”  
 パーティ坂田さんファミリー  
 その後ご出産の息子さんをお連れして下さいました。すっかり板についたパパ・ママぶりで、可愛い元気印のお子さんに振り回されながらもニコニコ！



## 画家の視線「シリーズ」 「マダム・パボリーニ」



私が Paris で生活していた時、3 年間の下宿住まいで一番お世話になったのがマダム・パボリーニさんです。彼女はロシア革命の時、命辛々フランスに亡命した経験をもつ人だ。お酒が入れば『私は若い頃、舞台女優をやっていたのよ』が口癖でした。御主人はプロのサッカー選手だったそうですが女癖が悪く離婚・・・彼女の額の深い皺はたどってきた人生の経験や哀歓を物語ってるようだった。私を自分の息子の様に頼り『Shuta～～！地下室からストーブの石炭持ってきてくれないかね！』その舞台で鍛え上げた大きな声で、力仕事になると私の名を呼ぶのです。マダムは全てのものに対して優しく、いとおしく、にこやかな笑顔を絶やさない人でした。人へのやさしさを教えてくれたマダムは 14 年前に亡くなりました。銀座の小さな画廊で“マダム・パボリーニに捧げる展覧会”を友人と二人で開いたのはしばらく後だった・・・今も私にとってパリ時代の楽しい思い出の 1 ページです。

森崎 修太



### お知らせコーナー

#### 今後の「修太個展」予定

- '03 1/28～ 2/2 日・・・札幌三越
- '03 3/27～ 4/2 日・・・守口京阪
- '03 4/29～ 5/5 日・・・福岡三越
- '03 7/16～ 7/22 日・・・神戸阪急
- '03 9/10～ 9/16 日・・・京都大丸

